

いの流水俳壇

松尾 満津於選

「当季雑詠」

寒々と独りの部屋の影ぼうし

片岡 包女

〔評〕この作品は俳句の妙味を表現に生かした、自分の心の自画像である。2月号の「流水俳壇」の句の中で私(松尾)は「独りの部屋の寒さかな」と詠んでいる。それは「妻が留守」の寒さであったが、この句の作者は夫を亡くして久しい、句の中の「影ぼうし」は亡夫の面影を意識したものである。もう齢を加えることのない夫の遺影、「そんな所に立つてないで早く暖炉の近に寄っておいで」……作者の生きている限りその鮮烈なおもいの尽きることはない。

豆を打つ我が心中の鬼向けて

竹崎 光子

〔評〕「心中の鬼」は作者自身の生きて来た過去を、反省した独白であろう。考えてみると人間は強いように見えても、その反面それと同じ位の弱さも持ち合わせている。「心中の鬼」は自身に向けた心の葛藤である。

泣きながら豆打つ園児鬼やらい

大川 節弥

〔評〕「福は内、鬼は外」泣きながら、自分の豆を撒いている幼稚園児、鬼の面を恐れて泣きだした。どうして此処に鬼が居るのか、理由も解らずただ只管に豆を撒く。「豆は投げたし恐さも怖し」如何にも幼稚園らしい節分の鬼やらい。

窓越しに小鳥ながめて冬籠り

森岡 照月

〔評〕冬の寒さを避けて家の中に籠ることを「冬ごもり」という、この句はガラス障子の内から外の景を眺めながら、部屋に籠っている。蜜柑、リンゴ等を割って庭木の枝等に刺して置くと、目白、うぐいす、ひたき、すずめ等の小鳥が、絶え間なく来て、餌を啄み、外気は寒くても心は和ましてくれる。そんな贅沢な冬籠り。

みくじ買うマスクの視線ふと笑う

岡本とも子

立春の刻む秒針白障子

友草 水月

浮寝鳥湖の広さを知りつくす

植田 紀子

二度三度鋤くほど畑は春の色

間 浩太

見せ合って結ぶ笑顔の初みくじ

川村 博子

飛び石は昔の歩幅猫柳

刈谷 志津

菜の花のからし和えかな宵の膳

秋田 律子

冬耕や煙残して農夫去る

井上 郁子

肩組んで山茶花のうた園児たち

小島 良

指先のにぶるこの頃ちゃんちゃんこ

津田 久美

鴨百羽薄暮の空へ飛び立てり

楠目 哲郎

日を浴びて眼白遊べる寒桜

中野 好子

笹鳴きや胸にひろがる郷の地図

伊藤 たみ

冬蝶の死んで居るかと覗きけり

川村 愛

独り居の寂しさ気楽さ春炬燵

筒井 文

節分や鬼もとまどう豆のかず

弘瀬うき子

息白く凍る朝やバス来る

筒井 一平

一樣に草餅類張る元氣な子

藤田 絹代

頑張って来ましたが、寄る年波には勝てません。一生けんめいについてきました

川村千凵子

出を一ぱいありがとうございました。

老残へ景色譲れる春のバス

松尾満津於

次 題 「立夏」「夏に入る」「夏来る」大概五月六日に

当る。万象は既に夏の歩みを始めている。

「5句以上10句まで」

締め切り 5月15日

投句先 吾北教育事務所 上八川甲2010

☎ 867-2133

お知らせ

平成21年1月、
上場会社の株券が
電子化されます

●株券電子化により、上場会社の株券は無効となり、株主の権利は証券会社などの金融機関の口座で電子的に管理されます。

●お手元の株券が本人名義になつていない場合は、電子化により株主としての権利を失う恐れがありますので、注意が必要です。自宅のタンスや貸金庫で長期間保管されている株券の中には、名義書換や転居の際の住所変更などが済んでいないものもあると考えられますので、この機会にご確認されることをおすすめします。

●株券電子化により、株式の管理や取引がより効率的に、より安全に行えるようになります。

問い合わせ

日本証券業協会 証券決済
制度改革推進センター

☎ 03-3667-4500